

再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：木村 昌司

事業名 一般国道46号 <small>かくのだて</small> 角館バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 東北地方整備局
起終点 自： <small>あきた せんぼく たざわこはねがだい</small> 秋田県仙北市田沢湖羽根ヶ台 至： <small>あきた せんぼく かくのだてまちつきみどう</small> 秋田県仙北市角館町月見堂		延長 6.1km
事業概要 角館バイパス(自動車専用道路)は、秋田県と岩手県の連絡を強化し、地域間交流の促進に大きく寄与する延長6.1kmの地域高規格道路である。		
H9年度事業化	H9年度都市計画決定	H11年度用地着手
全体事業費	230億円	事業進捗率
計画交通量	12,600台/日	供用済延長
費用対効果分析結果	B / C (事業全体) 2.8	総費用 (事業全体) 227 億円 (事業費：204億円 維持管理費：23億円)
		総便益 (全体事業) 628 億円 (走行時間短縮便益：482億円 走行費用減少便益：121億円 交通事故減少便益：25億円)
		基準年 平成18年
感度分析の結果 【事業全体】事業全体について感度分析を実施 交通量変動：B/C=3.0 (交通量 +10%) B/C=2.5 (交通量 -10%) 事業費変動：B/C=2.6 (事業費 +10%) B/C=3.0 (事業費 -10%) 事業期間変動：B/C=2.3 (事業期間 +20%) B/C=3.3 (事業期間 -20%)		
事業の効果等 ・国土・地域ネットワークの構築(地域高規格道路としての位置付け) ・個性ある地域の形成(主要な観光地へのアクセス向上が期待される) 他10項目に該当		
関係する地方公共団体等の意見 角館バイパスは、高規格幹線道路ネットワークを形成するとともに、交通渋滞の解消や観光期の交通渋滞の緩和、冬期走行環境の改善などに重要な役割を果たすことが期待されており、仙北市長をはじめとする首長で構成される国道46号地域高規格道路田沢湖・協和間整備促進期成同盟会等より、早期整備の要望を受けている。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 【執行済み額】事業費：90億円(進捗率39%) うち用地費：25億円(進捗率74%)		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ・田沢湖羽根ヶ台～(県)日三市角館線間のL=2.6kmについて、平成19年度内の部分2車線暫定供用を目標に事業推進を図る。 ・残りの区間については、平成20年代後半の暫定2車線全線供用を目指す。		
施設の構造や工法の変更等 ・橋梁下部工の施工に際し、築島方式を採用することでコスト縮減を図る。等		
対応方針 事業継続		
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図		
		

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。